

## 崩壊熱評価サブ・ワーキング・グループ会合議事録

日 時 : 昭和54年8月20日(月) 13:30 ~ 17:00

場 所 : 原研東海研究所

出席者 : 吉田(NAIG), 秋山(東大), 田坂(原研), 松本(原研)  
井原(原研, オブザーバー)

議 題 : (1) 崩壊熱評価プログラムのデータ・ファイルの仕様検討  
(2) 核分裂収率の取扱いについて

崩壊熱計算のための基礎データ・ファイル作成についての問題点と、今後のスケジュールを議論した。

- i) 処理コード PROFP の output file の仕様は前回決めたものでほぼよろしい。ただちにプログラムの作成に入る。
- ii) 核分裂収率については、新しい Reider-Meek の評価を用いる必要がある。しかし彼等が採録した decay chain 様式に対して、我々の方は新しいアイソマーや、分岐比のデータを取り入れてかなりの違いがあるので、彼等の cumulative fission yield をそのまま使用することはできない。彼等の independent fission yield と我々の decay chain 様式を基に cumulative fission yield を計算し直すことが早急に必要である。
- iii) 中性子捕獲断面積データについては、JENDL-2 の作業が終わると予定されている今年の冬まで待ってもよいだろうということになった。
- iv) 井原氏(高速炉設計)を崩壊熱ワーキング・グループのメンバーに迎えるように交渉をする。
- v) 作業計画

cumulative fission yield の計算については、田坂、井原が担当する。ただし、Reider-Meek の表から independent yield のインプット・データを作るところは、松本がアルバイトを交渉する。

PROFP の output file のプログラム作成は秋山が担当する。

第1段階のものは9月下旬を目標に作る。

PROFP の入力である生データの検討は中嶋，松本が行う。

vi) 次回 9月下旬に原研東海研